

史泉

第五十四号

原弘二郎先生を偲ぶ……………	富沢 靈岸	(1)
界の儒学者・小山朝三について……………	泉 澄一	(4)
『延喜式』記載の木漆器……………	高橋 隆博	(8)
——筥と麻笥——		
中国商人と長崎貿易……………	松浦 章	(39)
——嘉慶・道光期を中心に——		
カロリング時代の荘園における奴隷の問題……………	佐藤 芳弘	(65)
瓦経の復原試考……………	網干 善教	(96)
関西大学考古学等資料「古銭」資料紹介……………	角田 芳昭	(108)
史料紹介 相生浦附鮒一件略記録……………	咲花 守人	(113)
——那波家所蔵漁業関係文書から——		
昭和五十三年度史学・地理学科卒業論文題目		
(一部・二部・大学院)……………		(121)

あとがき

○前年度には、史学地理学科に津田秀夫教授（日本史）・松浦章専任講師（東洋史）を迎えることができましたが、昭和五四年には、新たに山崎寿雄教授（地理）・泉澄一教授（日本史）が着任され、より一層の充実と多彩さを構成することになりました。

○全国大学博物館学講座協議会の昭和五四年大会が、六月一六日に関西大学文学部学舎で開かれました。本学からは教育担当として網干善教教授、教務担当として角田芳昭氏が参加しました。三六校の大学が参加し、六七名の出席者がありました。午前中は総会があり午後には、網干善教教授の「大学博物館における資料研究」と題する講演がありました。このなかで、大学博物館における展示と研究のあり方について述べられたあと、近年来進めてこられた瓦経の問題を一例としてとり上げられました。莫大な仏典から瓦経の復原を行ない、諸写本の相互関係を明らかにする手がかりが得られるとともに、平安後期から鎌倉時代にかけて仏教がどのように変化するかという問題に一つの視点となることを指

摘されました。

○昭和五四年年度関西大学史学会大会が一月一日に視聴覚教室で開かれ、次のような研究発表がおこなわれました。

研究発表

- 西播の荘園と領主制 — 室町・戦国期西播の
一 地域の様相 — 木田 誠
国会開設願望運動の先駆 — 府県会議員連合
を中心に — 高島 敏彦
幕末期の砂糖貿易 — 長崎における落札値と
大阪相場を中心として — 岡田 寿子
古地図と日本像 — 特に近代地図学の開始
期 — 三好 唯義
古墳群の構造変遷とその理解 田中 晋作
古代エジプト帝国の形成 宮本 純二
正徳年間（一五〇六〜二一）に於ける葡萄牙
人中国渡来に関して 福田 和則
室町幕府の知行安堵について 吉田 徳夫
一〇世紀のイスマイリー派運動 — 北アフリ
カを中心として — 川崎 隆
大安寺八幡宮の頭屋儀礼 森 隆男
長城から紅旗用水路まで — 石を積んででき

た中国文化 —

井上 正一
川崎 讓司
松本 信夫

特別講演

日本列島における人口分布の長期時系列分析
— 時系列推計と要因分析（紹介）など —
山崎 寿雄

史 泉 第五十四号

昭和五十五年三月二十五日 発行

編集兼 大阪府吹田市千里山
発行者 関西大学史学会
振替 大阪二六〇一六番

印刷所 京都市下京区中堂寺鍵田町二
株式会社印刷同 朋 舎

福尾猛市郎 日本史選集

A5版・九三四頁
頒価 一万五千元

発行

千五六四 吹田市山手町三丁目
関西大学文学部日本史研究室内

福尾猛市郎先生古稀記念会
振替口座 大阪七三二四五番

慈覚門徒と智証門徒の抗争について

近江商人の発生とその発展に就いて

徳川初期に於ける商業仲間の発生について

近世寺内町の性質

——特に和泉國貝塚寺内町について——

藤原兼実の時代とその浄土信仰に就いて

——藤原の貴族信仰の衰落に関する一駒——

鎌倉時代における女性の財産について

日本中世の女性の地位

市町村史編纂の方法について

封建再編成期における集落自治の一樣相とその変貌について

——主として和泉貝塚寺内をめぐる考察

和泉橋本氏と後南朝

「讃岐国山田郡弘福寺領田園」考

戦国期根來寺の大名領主性について

——主として長門地域の史料を通じて見たる研究——

中世の大阪駅前地帯

——滝川博士に反駁する——

「たたら」名義考

日本民族の一つの性向

——若千の實業を通じての觀察——

曾根崎村と曾根崎新地

——中世の大阪駅前地帯再論——

和泉國近木荘

——惣的結合への方向を中心として——

品部と雑戸の差異について

長州藩玉層改革の意義と地元資本の育成

奈良時代における擬制同族的結合の意義

——特に郡司級の豪族性をめぐって——

「浪速」・「難波」の名義に関する復古的提唱

長寛三年清原兼次讓状について

菱垣廻船十組問屋表店組成立の前提

三吉鼓家文書

日本古代の「醬」の性質について

——その醬油たることの提唱——

主水司所管の水室について

——猪熊信男氏養葉文書の紹介をかねて——

備後南部における初期明光派真宗教団に関する新知見

近世播磨龍野醬油の生産と流通

近世初頭における都市商業と商人の性格

——主として近江安土・八輪城下町をめぐる——

江戸後期エトロフ島の開発と経営

近江八幡の安南渡海船額

大内文化

近江商人の活動を通じて見たる

東日本と西日本

下剋上の論理

瀬戸内海の歴史と文化

滄浪園の歴史

広島大学文学部所蔵猪熊文書について

日本古代庶民の家族形態と農業経営規模

——主として奈良時代の輕清単位について——

羽柴秀吉と兵庫・三田両城

明光派教団と絵系図序題編年の研究

天正十九年の京都落首

下剋上の語義とその展開

海賊の頭領となった伊子掾

日本における家族結合の歴史的特性

近江商人前史研究の視点

——古代近江の経済的地位と中世近江の物産——

名前の歴史

——系図・文書にあらわれる名前の知識——

古代家父長制と母權制の実態

(目次の順序は執筆順による)